

ま な び や

目黒の学び舎から



聖契神学校ニュースレター No.20 2009年2月11日発行 発行人 関野祐二
〒153-0061 東京都目黒区中目黒 5-17-8 聖契神学校 HP: <http://www.seikei-seminary.org/>
電話 03-3712-8746 FAX 03-3712-8804 郵便振替口座 00190-1-85761 「聖契神学校」

主の聖名を讃美いたします。

いつも聖契神学校のため、お祈りとご支援をいただき、ありがとうございます。立春も過ぎ、心なしか日差しに春のぬくもりを感じるこの頃。都心を吹き抜ける風はまだ冷たいのですが、昼チャペルを終え、青空に胸を開いて郵便局に向かう道を歩くと、冬至の頃よりいくらか高い位置にある太陽が正面から出迎えてくれます。目を閉じて、陽光の温かさを全身に受ける至福の時。混迷する世界情勢の中、主から献身者をお預かりし、育て、遣わす務めの特権と責任を覚えます。

「太陽は、部屋から出て来る花婿のようだ。勇士のように、その走路を喜び走る」(詩19:5)

校長 関野祐二

● チャペルあれこれ

月曜夜から土曜昼まで、休校日の水曜を除き昼と夜に毎日行われるチャペルタイム。月半ばになると、学生の履修一覧表とにらめっこしながら、翌月の説教者当番表を作成します。これは、パズルを組むような高い集中力に加え、平等性と牧会的配慮(?)が求められる作業。教師は月1~2回、学生は学び開始二年目より数ヶ月に一度担当しますが、基礎科クラスのみ時間帯は該当者不足、クラスが集中する日は過剰(?)で難儀します。作成者はもっぱら人手不足の穴埋めやピンチヒッター、さらには緊張して講壇に上がる学生たちを見守る役。うっかり途中で首をかきげたり、急に聖書へ目を下ろしたりすると、説教者に(会衆にも?)拡大解釈されるので、どんなにそうしたくてもつとめて平静を装います。演習以上に礼拝の場ですから、いったん講壇に立たされたら教師も学生も主の權威を委ねられた説教者。よほどのことがない限り、あとで否定的コメントをしないよう心がけています。そうした自由と責任、そして自覚の中でこそ、バランスのとれた説教者が育つと確信してやみません。そういえば、先日のK姉担当は意図せずして還暦の誕生日当日。主の粋な計らいですね。最近PA設備も一新し、息づかい(ため息?)やことばのニュアンスもしっかり伝達。クラスのない学生のチャペル参加も増え、活気づいています。

● 第四コーナーを回って

年明けからこの時期まで、めぐる日々の早さは異常なほど。在校生にとっては、後期授業が残り一ヶ月となり、まとめレポートや試験に向けた追い込みと息切れの毎日でしょう。神学校も、次年度に向けた学生募集が最終段階に入りました。入学希望者を後期から聴講生として多く受け入れたこともあってか、例年より問い合わせ数が若干少なめ。正規生10名、聴講生5名の入学を目標に、チャペル後祈っていただいています。どうぞふさわしい方がおられましたらご紹介くださり、主と教会に押し出されてぜひ受験してください。願書締め切りは2月末、入学試験は3月6日(金)午後1時からです。学校見学やお問い合わせを心よりお待ちしております。

この時期恒例の個人面談も四分の三を超えました。履修の仕方など実際の相談も多いのですが、

そうでない交わりと祈りの希望もけっこうあり、うれしいことです。最近、新聞で見つけたドイツ製のステキな目覚まし時計を購入。校長室の、ある場所に置いてあります（さて、どこでしょう）。それは、面談が漫談になって時間を忘れないよう、気づかれずに時間を見るため。ほんとうはもっとゆっくり話したいのですが、未採点のクイズとレポートがたまっているので、失礼。

● ボイラー室稼働開始！？

本館1階の通用口を入れてすぐ左側にボイラー室があるのをご存知ですか。関係者以外の立ち入りを禁ずとの掛札に恐れをなし、誰も中をのぞいたりはしないのですが、ボイラーで全館温水暖房をしていた時代も今は昔。ランニングコスト低減のため、かなり以前から部屋毎の暖房に切り替えています（女子寮ラウンジにも最近ガス暖房が入りましたよ）。学校遺産として残すには巨大すぎるボイラー本体でしたが、卒業生のA兄と関係の大工さんが昨年、その解体に着手。とうにあきらめていた管理者の否定的見解を尻目に、驚くべき労力と忍耐の末、最後は運び出せない部材を床に敷き詰めてコンクリートを流し込み、ついに立派な倉庫が完成したのでした。容積は十分で、お仕置き部屋にはもったいない美しさ。これまで、収納スペースが足りず困っていたのがウソのようです。使えなかった部屋が稼働するってうれしいことですね（使いモノにならなかった私たちの再生も同じ?）。もうこれで空き部屋はゼロ。築42年目にしてフル稼働の神学校施設です。部屋の再生が終わったので、次は骨董品化した品々の入れ替えに着手予定。まずはボイラー室の斜め前にある、文化遺産級の下駄箱（取っ手破損アリ）かな。すでに満杯なのです。

● 卒業式、入学式、新年度

今年度の卒業式は3月16日（月）午後6時半からです。説教者は、ウィクリフ宣教師として働かれ、現在はシオンの群教会牧師の石川學師。卒業生三名のひとりY姉は、前日に同教会の教育担当牧師となります（順序が逆!?）。在校生最年長のY兄（ひそかに〇〇じいと呼んでいます。ゴメンナサイ）、少し前まで最年少のK姉（ピアノとオルガンのスペシャリスト）も卒業。見事な年齢差ですね。まさか卒業生本人に式の奏楽を頼むわけにもいかず、元聴講生のE兄が駆けつけてくれます。昨年は濃い（△△な）個性の面々が大学卒業でしたが、今年はどうなるでしょう。

入学式は4月2日（木）午後6時半、カンバーランド高座教会牧師で牧会学担当の松本雅弘師が説教です。筆者とはK GK同期生。昨年は19名が式に臨みましたが、今年は何人の入学者を前に語ることとなるか、楽しみです。両日とも、式後は学生会主催の感謝会歓迎会です。いつも写真担当のP宣教師が帰国中ゆえ、筆者が真新しいデジ一眼カメラで撮りたいのですが、さて。

そして新年度授業は翌3日（金）開始です。ゆとり教育などどこ吹く風で、本校はいつも詰め込み教育（以前は入学式当日夜チャペル後から授業開始でした）。というより、20回のクラスで4単位を出すための、授業時間確保なのです。春眠をそこそこにしっかりウォーミングアップを！

● 聖契神学校の予定と祈りの課題

- ・ 卒業を控えた専門科3名の学びと、卒業後の歩みが守られるように。在校生が残された後期の学びを全うし、学びを継続する方々が新入生とともに新年度を迎えられるように。
- ・ 4月開始の新規科目「霊性の神学」担当と正規事務員に加えられる吉川直美姉のため。
- ・ 神学校の動きが守られ、キリスト教界における使命を全うできるように。教職員14名、運営委員3名、理事5名の動きが支えられるように。新年度の神学校運営のため。